

学びと成長レポート

第2特別号

はじめに

立命館大学ではコロナ禍の下で、2020年度春学期のすべての授業において Web を活用した形態（以下、「Web 授業」と記す）で実施しましたが、秋学期については、9月までの感染状況を見きわめながら、対面授業と Web 授業という二つの授業形態を併用する方針で臨みました。秋学期開始前に各授業がいずれの方式で実施されるのかを確認したうえで、11月前半には学生に対するアンケート調査を行い、授業の受講状況と課題を把握し、その課題の解消に努めてきました。また、秋学期末には教員に対するアンケートを実施し、2021年度授業に向けて大学として課題を把握したうえでその改善に努めてきました。

今回の「学びと成長レポート 第2特別号」では、この二つのアンケートの結果から判明したことをご報告します。学生アンケート調査は秋学期開始後1ヶ月頃の状況であり、その後授業形態の比率など変化したことも多々ありますが、当時の実情を示す数値を皆さんと共有したうえで、関連する2021年度の授業の開講方針についても触れておきたいと思います。

1. 2020年度秋学期学生アンケートおよび教員アンケートの実施概要

秋学期に実施した二つのアンケートの実施概要は次の通りです。一つは、秋学期開講1ヶ月経過時点における皆さんの授業受講の状況とその受け止めを明らかにするために、2020年11月2日～11月15日に実施した「授業の受講実感アンケート」（以下、学生アンケート）です。回答者は4035名で、全学生の13%となっています。

もう一つは、次年度に向けた Web 授業支援（FD 活動）につなげることを主目的として、秋学期の授業を担当した教員を対象に2021年1月25日～2月5日に実施した「2020年度秋学期 Web 授業支援に関するアンケート調査」（以下、教員アンケート）です。こちらの回答者は2312名で、全教員の46%となっています。



















2. 秋学期の受講状況と受講希望について

秋学期の授業形態については、教室条件等を勘案して感染防止の観点から Web 授業を要請する科目と、対面／Web のいずれにするかを学部・教員の選択に委ねる科目とに分けて臨みました。そのうえで、対面で実施する授業では、出席ができない学生に配慮してできるかぎり Web でも受講できるように要請をしました。秋学期開始前に大学が把握した秋学期開講授業の形態の内訳は、対面授業25%、対面と Web 授業の併用27%、Web 授業のみ47%であり、過半数の授業でなんらかの形で対面授業をとり入れることになっていました。

学生アンケートでは、直近1週間で受講した授業形態の比率について聞いています。これによれば、「半分程度（40%）」以上「対面授業を受講している」と回答した学生は「講義科目」で14%、「外国語科目」で9%、「演習・実習・実験科目」では55%となりました。前二者が Web 授業中心の受講形態となっていたのに対して、少人数科目である「演習・実習・実験科目」では対面での受講比率が高くなりました。

他方、希望する授業形態の比率（表2-1）についても、前二者と「演習・実習・実験科目」とについて大きな違いが見られました。「全て Web 授業」を希望する学生が「講義科目」では25%、「外国語科目」では35%にのぼった一方で、「ほぼ全て対面授業」がそれぞれ14%、18%にとどまりました。二極化しているとしてもよいでしょうが、いずれにおいても「半分程度（40%）」以上の授業については対面授業を希望する学生が4割前後に達していました。他方、「演習・実習・実験科目」では、「80%以上対面授業」が42%にのぼり、多くが対面授業を希望していることが明らかになっています。



表 2-1 学生が希望する対面／Web 授業比率（科目種別ごと）

| 回答選択肢 | 講義 | 外国語 | 演習等 |
|----------------------|---|---|---|
| ほぼ全て対面授業（対面 80%以上） |  14% |  18% |  42% |
| 大半は対面（対面 60%以上） |  11% |  9% |  14% |
| 半分程度は対面（40%以上） |  17% |  12% |  12% |
| ある程度は対面（対面 20%以上） |  15% |  13% |  8% |
| ほぼ全て Web 授業（対面 1%以上） |  18% |  12% |  8% |
| 全て Web 授業（対面 0%） |  25% |  35% |  16% |

自由記述には、対面授業を希望する意見と Web 授業を希望する意見が、どちらも多数寄せられていました。また、どちらか一方にして欲しいという意見が一定数出ていたことから、対面授業で大学に出てきた学生が学内で Web 授業を受ける環境を整備するよう努めてきました。

教員アンケートにおいては、講義科目と外国語科目では「最適な対面授業と Web 授業の比率」（表 2-2）は、「15 回全て対面」と答えた教員が 30% となり、過半数の教員は全授業回数のうち 2/3 以上が対面であることが望ましいとしています。他方で、「15 回全て Web 授業」が 21% となり、対面は 1/3 未満でもよいとする教員が 3 割弱となりました。

表 2-2 講義科目と外国語科目における最適な対面／Web 授業比率（教員アンケート）

| 回答選択肢 | 回答 | 比率 |
|---------------------------|-----|---|
| 15 回全て対面授業 | 320 |  30% |
| 15 回のうち 1～5 回は Web 授業 | 223 |  21% |
| 15 回のうち 6～10 回は Web 授業 | 205 |  19% |
| 15 回のうち 11 回～14 回は Web 授業 | 95 |  9% |
| 15 回全て Web 授業 | 224 |  21% |

教員の中でも対面中心の授業がよいのか、Web を中心とした授業がよいのかでは判断が分れていますが、大学としては 2020 年度において「対面での授業やキャンパス内での交流が失われたことによる学生への影響」¹⁾を重く受け止め、2021 年度の授業実施については、感染防止対策に最大限留意し、また学生が多様な状況に置かれていることを引き続き配慮したうえで、学生に対してキャンパスで対面授業に出席する機会をできる限り提供することを方針としました。特に対面授業を授業回数の 1/3 以下とする場合には、その理由を教員に求め、全学として確認することとしました。

3. 秋学期授業に対する評価

秋学期の11月時点における授業の総合満足感は、「ある程度満足している」または「満足している」と回答した学生が、講義科目で54%、外国語科目で51%と半数程度、「小集団科目」（演習・実習・実験科目）では66%と2/3に達していました。これは11月時点での状況であり、秋学期の最終的な満足度等については授業アンケートの結果分析をご確認ください。

また、秋学期のWeb授業の負担感（表3-1）は、「適度だった」と回答した学生はほぼ4割であった一方、「重かった」または「やや重かった」と回答した学生も48%と二極化する傾向が見られました。ただし、表3-1（参考）との比較からも分かるように、負担感は春学期よりも一定程度軽減されていたことがわかりました。

表3-1 秋学期のWeb授業に対する総合的な負担感

| 回答選択肢 | 1回生 | 2回生 | 3回生 | 4回生 | 5回生以上 | 合計 | 比率 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-----|
| 軽かった | 35 | 42 | 62 | 89 | 6 | 234 | 6% |
| やや軽かった | 73 | 64 | 80 | 76 | 3 | 296 | 7% |
| 適度だった | 522 | 410 | 421 | 203 | 21 | 1577 | 39% |
| やや重かった | 524 | 346 | 315 | 111 | 7 | 1303 | 32% |
| 重かった | 257 | 195 | 131 | 38 | 4 | 625 | 15% |

（参考）春学期の授業における総合的負担感の回答分布

| 回答選択肢 | 1回生 | 2回生 | 3回生 | 4回生 | 5回生以上 | 合計 | 比率 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-----|
| 軽かった | 20 | 30 | 45 | 91 | 6 | 192 | 5% |
| やや軽かった | 65 | 53 | 77 | 73 | 6 | 274 | 7% |
| 適度であった | 263 | 213 | 196 | 162 | 14 | 848 | 21% |
| やや重かった | 609 | 428 | 397 | 132 | 10 | 1576 | 39% |
| 重かった | 454 | 333 | 294 | 59 | 5 | 1145 | 28% |

この点については、秋学期開講時に教員に対して「課題が過多」²⁾にならないよう注意喚起してきたことが一定の効果をあげたように見えます。引き続き2021年度の授業においても「課題を課す場合は、学生に過度の負担が集中しないよう、提出期間や量など配慮」¹⁾するよう各教員に要請しました。

またWeb授業についての「実施方法の改善および授業の質の向上」¹⁾を重要な課題として認識しています。引き続き学習効果検証を実施していくとともに、IT機器操作やWeb授業改善に関する研修会を開催し、それらへの積極的参加を教員に呼びかけていきます。

4. Web 授業におけるフィードバックの重要性

Web 授業における学生へのフィードバックの状況とその重要性について確認しておきましょう。秋学期開始時点で、大学としては課題に対する質問や講評等について学生とのコミュニケーションをはかるよう教員に対して要請していました。²⁾

学生アンケートにおいては、「ほぼ全ての Web 授業」または「大半の Web 授業」で適切なフィードバックが行われたと回答した学生は 45% を占め、秋学期の多くの授業で適切なフィードバックが行われていたこととなります（図 4-1）。ただし、「ごく一部」や「皆無」とした回答も 2 割弱あり、学生アンケートの自由記述においても、適切なフィードバックが行われていない Web 授業への不満が見受けられました。

他方で、教員アンケートにおいては、「特に負担感を感じた」こととして半数の教員が「受講生へのフィードバック」と回答し、「受講生からの質問対応」も 3 割近くにのぼっていました。（表 4-1）教員の側でも負担感を感じながら、大学の要請したフィードバックや適切なコミュニケーションに取り組んだことが看取されますが、後述のとおり、引き続き教員に対してフィードバックを実施していくことを要請していきます。

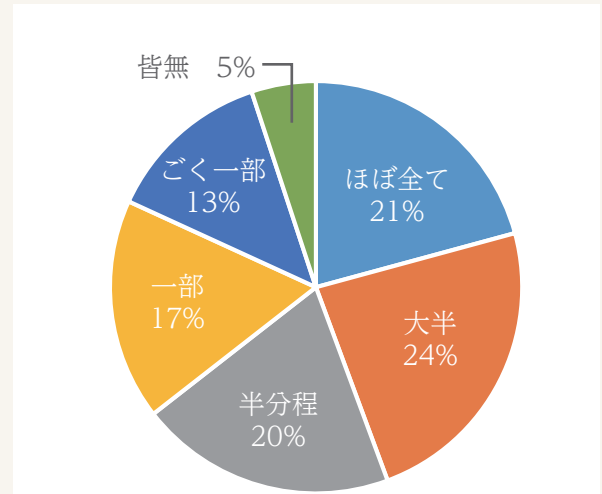
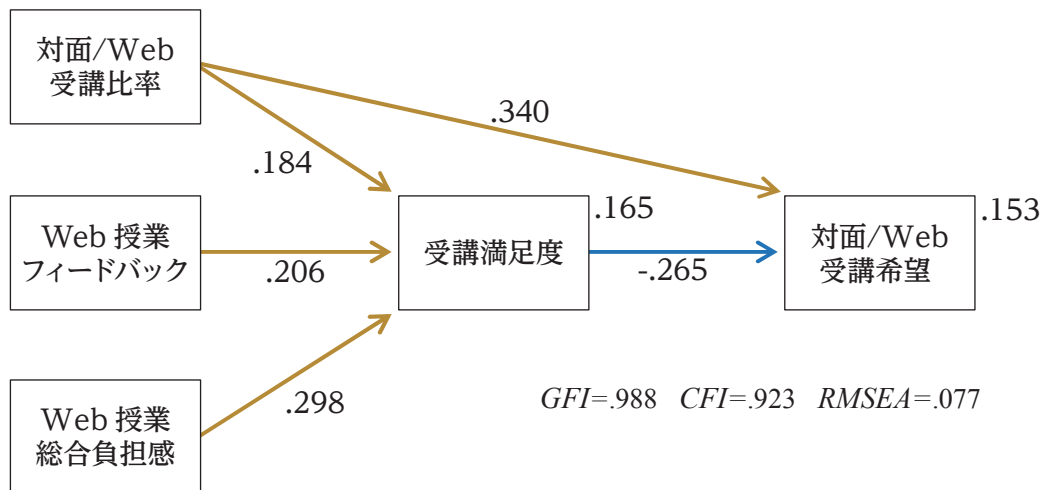


図 4-1 適切なフィードバックが行われた Web 授業の比率 (学生アンケート)

表 4-1 Web 授業の実施において教員が特に負担を感じていた事項 (複数回答可。教員アンケート上位 5 件)

| 回答選択肢 | 回答数 | 比率 |
|------------------------|-----|-----|
| 受講生へのフィードバック (採点・講評など) | 528 | 50% |
| 講義資料の作成 | 478 | 45% |
| VOD・動画等の作成 | 453 | 43% |
| 対面授業と web 授業の併用 | 372 | 35% |
| 受講生からの質問対応 | 313 | 29% |

最後に、今回のアンケート調査の分析から明らかになったフィードバックの重要性について指摘しておきます。それは、負担感とフィードバックには特徴的な関係性があることです（図 4-2）。



*数値は高いほど影響力があることを示す

図 4-2 受講満足度および受講希望授業形態に対する要因分析

対面授業をより多く受講し、また Web 授業では負担を感じつつもしっかりとフィードバックをしてもらっている学生ほど、受講満足度が高くなっていました(図 4-2 左部)。ただ解説を聴くだけの受動的な授業よりも、インタラクションやワーク、レポート作成などの活動や課題が出される授業の方が、皆さんに満足感を与えるということです。ただし、単に課題を出せばよいというわけではありません。負担感が大きい Web 授業にも関わらず皆さんが満足できるのは、教員が適切なフィードバックをしっかりと返している授業だけです。

こうした点にも鑑み、2021 年度の授業を担当する教員に対して、「資料のみを提示し、フィードバックの要素が少ない Web 授業は、学生からの不満が高まる傾向があります。できる限り、受講実感を得られるように、講義動画の配信や丁寧な学習方法の指示を行い、フィードバックの要素を組み入れていただきますようお願いいたします」¹⁾との要請を行っております。

また、フィードバックについては 2021 年 1 月に開催された全学協議会代表者会議においても、「どのようなフィードバックを行うことが教員、学生ともに最適なのか」³⁾という論点が学友会から提起されており、引き続き重要な課題として取り組んでいきます。

1) 立命館大学教学部「立命館大学の 2021 年度の授業実施方針について」(2020 年 12 月 23 日)

2) 立命館大学教学部「秋学期の準備に向けて：授業を担当される先生方へのお願いとお知らせ」(2020 年 9 月 7 日)

3) 立命館大学学友会「2020 年度代表者会議 学友会からの論点提起」(2021 年 1 月 27 日)